



特定非営利活動法人 HSEリスク・シーキューブ

2020 年度 通常総会 議案書

2020（令和2）年度 通常総会議案

1. 2019（令和元）年度事業活動報告
2. 2019（令和元）年度収支決算報告
3. 法人の解散について

2019（令和元）年度 事業活動報告

1 事業の成果

2019年度、当NPO法人は、「行政・企業・市民間のリスクコミュニケーション活動の支援事業」として、東海村より受託した「社会科学の拠点づくりとオープンな議論の場づくり推進業務委託」において、「地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業」の対象研究の選定、推進支援、成果報告企画を行うとともに、大人向けサイエンス講座を企画・実施した。関連してTOKAI原子力サイエンスフォーラムの企画と実施支援も行った。

「安全及び環境の保全に係わる施設・活動の市民による視察および改善提言の事業」として、瑞浪超深地層研究所の見学会を企画したが、施設側の都合で実施できなかった。

「科学技術リスクに係るリテラシー養成事業」では、東海村の太陽光発電事業の説明会を実施し、太陽光発電所の運用実績や安全対策の確認を行った。

「リスクコミュニケーション活動に係わる広報啓発事業」では、ホームページ上で活動状況を開示した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
行政・企業・市民間のリスクコミュニケーション活動の支援事業	社会科学の拠点づくりとオープンな議論の場づくり推進業務委託	31/04/01 ～ R2/03/31	東海村	2名	東海村および周辺市町村の住民	2,306
安全及び環境の保全に係わる施設・活動の視察および改善提言の事業	瑞浪超深地層研究所の見学会の企画立案	31/04/01 ～ R1/10/31	東海村	10名	東海村および周辺市町村の住民	0
科学技術リスクに係わるリテラシー養成事業	太陽光発電所の見学会の実施	R2/03/11	東海村	9名	東海村及び周辺市町村の関心者	0
リスクコミュニケーション活動に係わる広報啓発事業	ウェブサイトの運用	31/04/01 ～ R2/03/31	千葉県	1名	全国の関心者	13

3 事業の詳細

(1)行政・企業・市民間のリスクコミュニケーション活動の支援事業

東海村より受託した「社会科学の拠点づくりとオープンな議論の場づくり推進業務」において、「地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業」のための選考委員会を設置し、支援対象研究を決定するとともに、採択者が所属する大学との契約手続き、12月の進捗報告会の実施、2月の成果報告会の企画立案を行った。また、村と協議し、東海村の特性を生かしたまちづくりに繋げるために放射線利用に関する大人向けサイエンス講座を企画し、2回実施した。関連して TOKAI 原子力サイエンスフォーラムの企画を立案し、令和2年2月7日にフォーラムを実施した。以上の活動と課題をまとめた実施報告書を村へ提出した。

(2)安全及び環境の保全に係わる施設・活動の市民による視察および改善提言の事業

原子力発電利用に伴って発生する高レベル放射性廃棄物の処分問題を学ぶため、日本原子力文化財団の支援事業に応募し、瑞浪超深地層研究所の見学会を計画したものの、研究所側の問題により実施できなかった。

(3)科学技術リスクに係わるリテラシー養成事業

近年注目されている再生可能エネルギーの安全性や課題を学ぶため、東海村太陽光発電所の見学および運営会社による説明会を企画し、令和2年3月11日に実施した。運営会社より運用実績や安全対策について詳細な説明を受けた。

(4)リスクコミュニケーション活動に係わる広報啓発事業

ホームページを用いて、活動状況を発信した。

(5)その他

<理事会>

第17回 令和元年5月18日 東海村産業・情報プラザ 1階 会議室

平成30年度事業報告、決算報告、平成31年度事業計画、予算案について説明し、今後の活動計画について議論した。理事会終了後、引き続き総会を行った。

NPO法人HSEリスク・シーキューブ 2018（平成30）年度 活動記録

30年度	行政・企業・市民間の リスクコミュニケーション活動の支援事業	安全及び環境の保全に係 わる施設・活動の視察お よび改善提言の事業	科学技術リスクに係 わるリテラシー養成 事業	リスクコミュニケーション活動に係わる 広報啓発事業
4月	東海村社会科学研究支 援事業の公募を開始			H P の運用継続
5月	選考委員会で採択研究 2件を決定			
6月	研究支援事業に関して 長野県立大学および 東北学院大学と契約	瑞浪超深地層研究所の見 学会の企画立案・支援 事業への応募		
7月	サイエンス講座の企画 立案			
8月		今年度実施不可の通知を 受ける		
9月				
10月			現場見学会の企画	
11月	17日 サイエンス講 座「放射線で認知症を 見る」			
12月	8日 サイエンス講 座「放射線でがんを たたく」 10日 進捗報告会を 実施			
1月				
2月	7日 TOKAI 原子力 サイエンスフォーラ ム実施（企画）		↓	
3月	東海村へ実施報告書を 提出 東海村よりまちづくりに 関する事業を受 託・契約		11日 東海村役場の 太陽光発電所見学 会を実施	↓

2. 令和元年度収支決算報告

貸借対照表			
NPO法人HSEリスク・シーキューブ 全事業所		[税込] (単位: 円) 2020年 3月31日 現在	
資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		前受金	△ 236,996
現 金	32,808	流動負債計	△ 236,996
当座 預金	77,818	負債合計	△ 236,996
普通 預金	169,168	正 味 財 産 の 部	
現金・預金計	279,794	【正味財産】	
(その他流動資産)		前期繰越正味財産額	27,058
立 替 金	△ 282,552	当期正味財産増減額	207,180
その他流動資産計	△ 282,552	正味財産計	234,238
流動資産合計	△ 2,758	正味財産合計	234,238
資産合計	△ 2,758	負債及び正味財産合計	△ 2,758

財 産 目 録			
NPO法人HSEリスク・シーキューブ 全事業所		[税込] (単位: 円) 2020年 3月31日 現在	
《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
現 金	32,808		
当座 預金	77,818		
普通 預金	169,168		
郵便貯金	(38,074)		
三菱東京UFJ口座	(131,094)		
現金・預金計	279,794		
(その他流動資産)			
立 替 金	△ 282,552		
土屋智子立替分	(△ 282,552)		
その他流動資産計	△ 282,552		
流動資産合計		△ 2,758	
資産の部 合計			△ 2,758
《負債の部》			
【流動負債】			
前 受 金	△ 236,996		
流動負債計		△ 236,996	
負債の部 合計			△ 236,996
正味財産			234,238

活 動 計 算 書

NPO法人HSEリスク・シーキューブ		[税込] (単位: 円)
		自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日
	特定非営利活動に係る事業	合計
【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	65,000	65,000
活動会員受取会費	15,000	15,000
賛助会員受取会費	8,000	8,000
【受取寄付金】		
受取寄付金	500,000	500,000
【事業収益】		
事業 収益	178,000	178,000
受託事業収益	2,000,000	2,000,000
【その他収益】		
受取 利息	6	6
雑 収 益	1,000	1,000
経常収益 計	2,767,006	2,767,006
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給料 手当(事業)	160,000	160,000
外 注 費	60,823	60,823
通 勤 費 (事業)	78,107	78,107
人件費計	298,930	298,930
(その他経費)		
諸 謝 金	140,000	140,000
印刷製本費(事業)	4,560	4,560
会 議 費 (事業)	1,972	1,972
旅費交通費(事業)	135,857	135,857
通信運搬費(事業)	2,338	2,338
租税 公課(事業)	400	400
支払助成金	1,715,000	1,715,000
雑 費 (事業)	7,361	7,361
その他経費計	2,007,488	2,007,488
事業費 計	2,306,418	2,306,418
【管理費】		
(人件費)		
人件費計	0	0
(その他経費)		
印刷製本費	59,380	59,380
会 議 費	1,000	1,000
旅費交通費	35,953	35,953
通信運搬費	27,150	27,150
消耗品 費	100	100
諸 会 費	10,000	10,000
租税 公課	84,000	84,000
雑 費	35,825	35,825
その他経費計	253,408	253,408
管理費 計	253,408	253,408
経常費用 計	2,559,826	2,559,826
当期経常増減額	207,180	207,180
【経常外収益】		
経常外収益 計	0	0
【経常外費用】		
経常外費用 計	0	0
税引前当期正味財産増減額	207,180	207,180
当期正味財産増減額	207,180	207,180
前期繰越正味財産額	27,058	27,058
次期繰越正味財産額	234,238	234,238

<参考>

東海村受託事業「社会科学の拠点づくりとオープンな議論の場づくり推進業務」

	予算	実績
①原子力と地域社会に関する社会科学的調査・研究の支援と村民への紹介	2,174,900	1,870,537
選考委員会および進捗報告会 委員謝金	75,000	50,000
選考委員会他 委員および採択者旅費	99,900	105,537
研究支援金	2,000,000	1,715,000
②様々な立場の村民が東海村の将来について議論し協議する場の企画立案と実施	224,860	313,667
③サイエンスタウンの知的財産を活用した多様な世代の学ぶ場づくりの企画立案と実施協力		
コーディネーター人件費	100,000	160,000
コーディネーター旅費	64,860	78,107
講師謝金 および旅費	60,000	75,560
④企画運営委員会の設置と運営	25,320	44,760
企画運営委員謝金 (4名×1回)		30,000
企画運営委員 旅費 (2名×1回)		14,760
⑤議事録及び報告書作成	0	0
直接費 計	2,425,080	2,228,964
間接費 (直接費×0.04)	97,003	89,159
計	2,522,083	2,318,123
端数処理	△ 2,083	0
本体額	2,520,000	2,318,123
請求額 (本体額－概算払い)		318,123

監査報告書

令和2年4月27日

特定非営利活動法人 HSE リスク・シーキューブ
代表理事 佐藤 隆雄 様

監 事 村松 健



私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人HSE リスク・シーキューブの令和元年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）の計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

財産の状況に関する監査にあたっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の会計処理は、一般的に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の計算書類が、特定非営利活動法人HSE リスク・シーキューブの令和2年3月31日をもって終了する事業年度の、同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

法人の解散について

(1) 提案内容

特定非営利活動法人 HSE リスク・シーキューブは、令和3年（2021年）3月31日をもって解散する。その間の役員は、現行理事が継続するものとする。

(2) 提案理由

当法人は、東海村でのリスクコミュニケーション社会実験プロジェクトで提案された視察プログラムの継続を中心に、2005年（平成17年）10月5日に設立され、今日まで東海村やその周辺の会員による自発的な提案を基に様々な活動を実施してきた。しかしながら、近年①会員数の減少、②会員の高齢化や③定例会への参加人数の減少が顕著となっていた。令和元年度には定例会幹事を設け、事務局依存ではない活動を目指したものの、継続の判断が難しい事態となっている。財政を支える東海村の受託事業は、事務局長である土屋智子が企画から実施までを担っており、会員は間接的な関わりしかできず、当法人の活動として位置づけ難くなっている。

以上の状況を理事会で議論した結果、当法人が目指す活動の担い手がないことから、法人の解散を総会に提案することとした。

(3) 解散までの手続き等

- ①解散が決議された場合、清算人として土屋智子を指名する。
- ②土屋智子は、茨城県や法務局への手続きを行う。
- ③2021年3月31日時点での残余財産の受け入れ先を理事会で決定する。

なお、清算人が清算を行い、清算終了の登記を行った後、当 NPO 法人の法人格が消滅することとなります。2021年4月以降の東海村受託事業の清算を終了後、残余財産の引き渡しをすることとします。

(4) 解散までの期間およびその後の活動について

解散によって NPO 法人としての法人格は消滅しますが、シーキューブが行ってきた活動は、例えば任意団体を設立し、実施することが可能です。理事会は、今後、どのような形で活動を継続するかについて、皆さんと議論していきたいと考えています。積極的なご提案をお待ちしています。